

## 掲示板 その1



### 希望ヶ丘はつらつクラブ



毎週木曜日、AM9～12時まで、白石内雄さん、川村栄巴子さんをリーダーとして様々な取り組みをしています。指の運動を目的とした手芸、折り紙、愛の里より先生に来ていただいて手遊びゲーム（人の失敗も自分の失敗も涙が出るほど大笑い）、イキイキサロンより3B体操や音楽療法、もったいないが口癖の川村さんによるアイデア満載の物作り、そして区内外との交流、区内に向けては食の楽しみとして料理教室、区外に向けては柘植の倉部との日帰り研修旅行、料理教室、音楽療法などです。終わった後のミーティング、お茶菓子の楽しみ、毎回ワイワイ、ガヤガヤのはつらつ会です。一度、覗いてみませんか？皆さんのお越しを待っています。

### ～ ヤマギシだより ～

——春風に乗せて花便り——



前号で、クロスカントリーマラソンのコースを紹介しましたが、お花見コースもほとんど同じです。村の北西端坂下から上がって南東端の元赤萩フランチ前までを通り抜ける公道に沿って、四季折々の花木が植えられています。花壇では、葉ボタン・三色すみれが冬を担当、フリージャー・チューリップは春の出番を待っています。花木たちはもっと多様で、今咲いている山茱萸（さんしゅゆ）・山椿・紅梅、開花を待ちかかっているのは、こぶし・木蓮・れんぎょう・ミツマタ・山吹、そして、そめいよしのなど。村の中央、バラ園の東側に生きる大きな桜は、実顕地が始まった頃植えられたもので、樹齢50年。それはそれは見事に開花してくれます。とれたて野菜直売所の向かい側、牛舎の西側には、こぶしの並木。そこから更に西方に見える、モニュメントの立つ公人の丘にも、様々な花木が植えられています。車で通り抜けても、ゆっくり散策しても、又ジョギングしても、それぞれに美しく咲く花々に出会えることと思います。

【村のことでのお問い合わせは TEL45-5550 (村人窓口) へお気軽にどうぞ】



### 編集後記

平成18年度の、コミュニティ壬生野は今回で最終号となります。一年間、地域の皆様方のご支援とご協力ありがとうございました。

現在、まちづくり協議会では総会に向けた事業報告、事業計画案を精査しているところです。平成19年度総会は4月28日(土)午後8時から希望ヶ丘いきがいセンターで開催することとしています。地域の皆様方どなたでも傍聴できますので是非ご参加いただきますようお願いいたします。また、まちづくり協議会では19年度のまちづくり委員を公募(10名以内)しております。4月7日(土)までに下記事務局迄FAX若しくはEメールにてご応募下さい。また、各地区の区長さんにご応募頂いても結構です。

また、春休みを『ときめきサロン』でお過ごし頂くために、新刊図書を追加し、ときめき文庫を充実致しました。皆様方の更なるご利用を宜しく願います。(委員長)

編集委員 居附秀樹 宮田美智子 増田裕充 塚本正子 渡部税子 中林豊 新村由美子  
三根久美子 高橋大輔 梅田佳生 山本眞司

◇◇◇ご意見・お問い合わせは下記までお寄せ下さい◇◇◇

発行 壬生野地域まちづくり協議会 広報公聴実行委員会  
事務局 三重県伊賀市川東 1659-5 壬生野福祉ふれあいセンター内  
Tel・Fax 0595(45)6270 E-mail tokimeki@ict.ne.jp URL http://www.mibuno.net



# コミュニティ壬生野 第25号



壬生野地域まちづくり協議会広報

平成19年3月30日発行

この春

## 44名が壬生野小学校を卒業されました。



### 巣立ちゆく44名へ

卒業式の予行を見ながら、子供たちと初めて出会った日のことや、一緒に過ごした日々、様々なできごとを思い出し、ぐっと胸にくるものを感じていました。そして卒業式を迎え、たくましく、立派に育った子供たちの姿に、ほんとうに胸が熱くなりました。晴れの日を迎えた子供たちに、心から拍手を送りたいと思います。

6年間の小学校生活は、長いようでもあり短いようでもあり、その中でそれぞれが様々なことを学び、考え、いやなこと、楽しいこと、たくさんの新しい経験をしながら、家族や地域の人々に見守られ、多くのことを身につけたことと思います。とりわけ家族の方々の深い愛情があつてこそ、この子供たちの健やかな成長はあるのだと思います。

これからこの44名は、それぞれが新しい舞台で、これまで以上に多くの人と出会い、多くのことを学び、そして多くの貴重な経験を積んでいくことでしょう。困難に直面したときも、自分の意思をしっかりと持ち、時には誰かに相談しながら、その困難を乗り越え、心をより豊かに成長させていってほしいと思います。

人を愛する心、豊かな心と強い意志、それは、多くの人と接し、つながり合い、学び合う中で習得できるものだと思います。子供たちそれぞれが、胸に抱く夢に向かって進んでいってくれることを願っています。

【6年担任 担当 谷本 敏美 杉岡 政則 川口 和司】

おめでとう



## ◆宝塚市において“まちづくり先進事例研修”を開催しました◆

去る2月16日(金)壬生野地域まちづくり協議会の主催で兵庫県宝塚市、並びに中山台コミュニティのまちづくり事例について委員研修を行いました。

当日は、まちづくり協議会委員20名と伊賀支所から支所長他2名の随員職員を含め23名が宝塚市を訪問しました。宝塚市は『市民参画のまちづくり』発祥の地として全国のまちづくり事例の礎を築いており、壬生野地域はもとより伊賀支所管内の『地域まちづくり計画』策定から組織構成に至るまで、宝塚市のシステムを採り入れ住民自治を進めてまいりました。

今回の視察目的は、平成19年度から伊賀市の住民自治に係る財政支援制度が改められ交付金が減となることによる組織の運営方法。また、平成20年度の開設を目指して建設中の、壬生野地区市民センターとまちづくり協議会との連携方法を模索するため先進事例を調査することです。

宝塚市の中でも、中山台コミュニティは市からの指定管理を受け拠点施設を管理していること、エコマネー(地域通貨)、コミュニティビジネスを地域活動に取り入れていることなど地域の課題に総合的に取り組んでいます。



伊賀支所 居附 秀樹

市町村合併に伴い地域まちづくりが進められています。壬生野地区も行政の支援のもと、住民主体のまちづくりに取りくまれています。

その拠点となる地区市民センターが本年より壬生野小学校前に建設され、来年度より開設予定とのことです。

それに先がけ、去る2月16日、早くからまちづくりに取り組んでいる宝塚市中山台コミュニティを視察しました。

多くの資料を頂き、まず感じたことは、規模や環境のちがいでした。旧伊賀町より大きな町を住民が自ら運営されているのに感心しました。支援が少なくなりつつあり、今後ボランティアやコミュニティビジネスで地域活性化を図って行かなければなりません。今までの地区活動を尊重し、ともに地道な取り組みが肝要であること指導いただき有意義な一日を終えました。

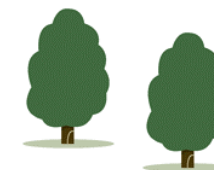
この度、事務所で世話になる事になり、今までの区活動とともに、まちづくりの重要性を感じ、住みよいまちづくりの一助が出来ればと思います。

(稲森 てる代)

私は、昨年5月から、壬生野地域まちづくり協議会が何かも知らず、ただ、地域社会づくりの一役になればと思い参加して来ました。目の前のスケジュールをこなすだけで精一杯でしたので、まちづくり協議会が何をめざし、どう実現していくのかさえ、理解できずにいました。それで先進事例の中山台コミュニティの概要の説明をしていただいても、それが私の暮らす壬生野地域とどう結びつくのか、その回路を見い出せず、質問も思いつかず、ただ丸飲みして帰って来た感じでした。印象としては、中林さんが報告書にお書きになったように『中山台コミュニティがあまりにも大きく……シックリこなかった』と、私も感じました。中山台では、事業とかイベントの数々がまちづくりの推進力になったようですが、壬生野地域では、数より質の深まりでやれるのではないのでしょうか。今あるもの、これまで培われて来たものをよく見直し、再認識して、そこから成長していく。まちづくりの本流は、人づくりで、そのための建物、事業であることが肝要だと思います。ここは「人権」「解放」などのテーマで、子供たちが小さい頃から、他のことを思い、自分の心を見つめ、それを行動に表わす練習を積んで育つ土地柄。伝統的村落のしくみと風が伝承されている地区と、新しく移り住んだ人々でゼロから創られてきた地区が共存している土地柄。各々の地区がその個性を生かし合って共生する壬生野地域にしていきたいと思うのですが、どうですか？子供たちが壬生野小学校ひとつに寄って育ち合っているのですから、私は、この地域の農ある暮らしが健在している土地柄と、人権学習で培われてきている人柄、この2つを育て続けていくことが大切だと思います。持続していくことは、地味で地道ですが、新しいことを始めるのと同じ位、知恵と力を必要とすることではないでしょうか。

一見、かけ離れたと思われる中山台コミュニティを視察・研修することで、壬生野地域が今までと異なる角度から見えて来たように思います。まちづくりも、各々、個性があることで、育ち合えるのですね。

(新村 由美子)



### 「人間ありき」のまちづくりに学ぶ

平成19年2月16日、23名参加の宝塚市中山台コミュニティのまちづくり視察は、昼食のイタリア料理、先方中山台コミュニティの丁寧な対応等、事務局のすぐれた心遣いで無事成就できたこと何よりに思います。

今回の視察で印象深かったのは、中山台コミュニティのまちづくりの取り組みの根底に流れる「人間ありき」のコンセプトです。

堀江会長以下それぞれの組織の中の役職の方々及び宝塚市の対応にそれを観ることができました。

取り組みについては、殊更目新しい手法は観察できませんでしたが、時間をかけた手厚い話し合いを基本に展開している運営は、当然のこととはいえ感銘を受けたところです。

コミュニティに住む人々がコミュニティの人々のために働くという強烈なコミュニティ意識を実感した今回の視察でした。

以上  
(山本 和生)

玄関で見送って頂いた時、中山台コミュニティの事務局長さんの言葉が耳に残りました。

まちづくりは、皆の総意で決まるが、特に『やる気』のある人の参加、そして興味のある町づくり(雰囲気づくり)が大事であると言われていた。そして、そんなに急がず、スロー、スローでと。

この町も高齢化の波が押し寄せているようであった。我が地域も振り返ってみても、同じような事が言えるのではないか。

若い層が参加したい『まちづくり』を目指すこと。スロー、スローの気持で。地域のニーズに合った町づくり活動を目指して下さいと言われていたようでありました。

(増森 和吉)



宝塚市中山台コミュニティへの視察研修を終えて1週間余りが過ぎて、印象もうすれかかって来たところへ、この報告書作成依頼がまいこんで来た。

年をとって記憶力が減退しているうえに、中山台のコミュニティがあまりにも大きく（人口だけでも旧伊賀町の規模をはるかに超えている）壬生野地域の参考にと昼食後の眠気を我慢しながら話を聞いていたが、あまりシッカリこなかったので、頭の中にはほとんど残っていない。

しかし、白紙で出すわけにはいかないだろう。当日頂いた資料に目を通しながら、思いついたことを書いてみよう。

まず、壬生野地域まちづくり協議会の運営に参加して、約1年が経過しようとしているが、この単位（規模）の住民組織として「どうしても何かをしなければならない」という必要性を未だに感じられないでいる。

農村部にある我々の自治会（区）の活動は都市部や振興住宅地の自治会の活動より大きく、中山台で考えられているコミュニティ活動の一部をも取り込んだ活動となっている。

また、中山台コミュニティで必要とされた活動の一部は、いがまち（旧伊賀町）の活動としてされてきた部分もある。

協議会を作った、部会も作った、だから何か事業をしなければという感じが強い。しかし、防犯活動のように自治会では出来ないが中規模のコミュニティとしてやっていかなければならない事等を、原点に戻って考え直す必要を感じる。（無理にイベントを行う必要はない）

もう一つ、集められたマンパワーでなく、集まったマンパワーで運営する必要がある。中山台のように人口が多ければ、そういう人の存在も多いのは当然ではあるが、あの70歳以上の方々のパワーには頭が下がりました。

辛口になってしまいましたが、ご勘弁ください。

（中林 正彦）

宝塚市中山台コミュニティの視察研修に参加して

去る2月16日伊賀支所長さん初め職員2名と壬生野まちづくり協議会役員、幹事、委員含め23名が宝塚市中山台コミュニティの視察研修を行った。中山台コミュニティを選んだ理由の一つとして、伊賀市が早くから住民自治に取り組んでいるとして、まちづくり計画にこの地をモデルとして取り入れていた事、いま壬生野まちづくり協議会の拠点となる地区市民センターが建設される事になり、造成の最中であり19年に建設、20年開設される事になっている事であった。そのため運用の方法等を詳しく知りたかったのである。

中山台は40年程前に宝塚市の丘陵地帯長尾連山の中腹に開発されたたいへんすばらしい高級住宅地で、眼下に伊丹空港を見おろす絶景の地の利の場所であった。

11の自治会で結成されていて全住民から選出された評議委員で事業計画が決定され、各自治会と連絡を密にしながら事業を行っていた。

運営委員会では、専門部門で、まちづくり、青少年、地域活動、健康スポーツ、福祉活動、生涯学習、緑化活動、エコマネーの各専門部会を作って活動をしていた。エコマネーについては多少問題があるとのことであった。

又三階建のコミュニティセンターは宝塚市より指定管理者として委託を受け、住民の会費、一会員年間200円とで運営しているとのことであった。

壬生野と中山台は環境の共通点に乏しかったが、みんなが我が居住環境を守り、より良くする事が共通の願いであると感じた。

まちづくりの大切さを感じて、一人でも多くの住民の参加を期待したい。

（中森 徳之）



“中山台コミュニティの研修に参加して思ったこと”

昭和40年以降から開発されたベッドタウンも今は高齢化が進み何処も同じ境遇です。

平成3年に自治会にボランティア集団による協議会を立ち上げられたがうまくいかず、平成11年に行政による積極的な指導のもとに自治会協議会とボランティア集団化したコミュニティ協議会の組織統合が検討され、再発足されて今日の「中山台コミュニティ」に至っているとのこと、素晴らしい組織運営がされていると感じました。

住民のための地域作りが住民達で行われているように思われました。

- 一戸当たり年間200円の会費を出し合っている。
- 高齢者、障害者、子供達への福祉活動がボランティアグループと民生委員が協力し合っている。
- 地域活動では作品展、プロの演奏会、第九の合唱、文学の講演会など
- 生涯学習ではパソコン教室、ワインの集い、日本酒の集いなど、趣味の世界への誘いと題して興味深いものがある。
- 青少年育成や緑化環境対策にも力を注いでいる。

無料で参加出来るものと、サービスを受けると有料のものがある。

行政、住民、ボランティアがうまく協働する事によって運営されています。

高台で景観の良い地域に位置しているのも有りますが、それ以上に住民の人達のまちづくりに対する熱意が伝わってきて温かいものを感じました。

(宮田 美智子)

2月16日(金) 良いお天気にめぐまれ、いつも仲良くしているまちづくりの仲間と共に宝塚市中山台へ視察研修に壬生野小学校から出発しました。午後1時ごろに中山台のコミュニティセンターに着き、中山台コミュニティの方々に迎えられ、中山台コミュニティの現況をお聞きしました。

組織図を説明して下さい、各部会での活動報告があり、熱心なボランティアで支えられ活発な活動をしているそうです。中山台コミュニティは11の自治会から出来ていて、新興住宅地ばかりの集まりであるそうですが、私たちの住んでいる壬生野地区とはどんな違いがあるのかと考えましたが、人口の減少と高齢化が目立ってきて、まちづくりとしてはどのように取り組んでいくかは、今後の課題であることは壬生野地区も同じではと感じました。

壬生野地区のまちづくりもこれからですが、住民一人一人がまちづくりに対する意識を高めていき、ボランティア活動も取り入れていき、良い町になっていくように願って宝塚市を後にしました。

(塚本 正子)

先ず参加する事、希望ヶ丘での班長の経験もない私がどこまで研修の内容を理解出来るだろうかと言う事でした。でも、いつも伊賀に来るたび5年生と2年生の孫二人が爺ちゃん、ばあちゃん、「伊賀に住んでくれてありがとう」と言ってくれる、この壬生野の里・・・素晴らしい所なんだと教えてくれました。何をどうしていいか解らない今、不便さゆえに思うことがあり参加、1回目より2回目なら少しは理解度もちがうし質問も違うでしょうと言うのが正直な所です。エコマネー…気になります。とにかく中山台のまちづくり計画ガイドライン、コミュニティの創造と発展等目をとおし、こんなことができるといいな—そして様々な事を立ち上げて実行している人がどこにでもいる、希望ヶ丘にもおられます。高齢者福祉の充実、青少年広場、交通網の件、一人でも多くの方が参画できるまちづくり、あれも出来る、これも希望ヶ丘でやれるんじゃないかと思ったのがありました。

この研修に参加しなければ、想いも浮かばないし知識もつきませんでした。そして十人十色、受け止め方はいろいろでしょうが、建設中の壬生野地区市民センターがきっと壬生野の皆さんの交流の場になるでしょうし、どんな活動をやってもらえるのかと楽しみにしています。そしてやはり行く必要のあるリーダーの育成だと思います。(この指止まれではない)

(希望ヶ丘となんとなく似た地形・・・役員さんも見学に行ったらいいな—と思いました。)

(渡部 税子)

